

新年のあいさつ



和水町長 高巢 泰廣

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。皆さまには、日頃より、町政に対し、温かいご理解とご協力、ご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。平成31年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

平成30年を振り返りますと、6月の大阪府北部地震、西日本集中豪雨、9月に発生した北海道胆振東部地震など、日本各地で甚大な自然災害が連続し、多くの尊い命が失われ、莫大な財産が損なわれました。被災された皆さまと地域に対し、町民の皆さまと共に、衷心より哀悼の意を表し、お見舞いを申し上げますと存じます。和水町におきましては、幸いにも自然災害による大きな被害もなく、平穏な日常を維持することができました。

町内の出来事としては、主なものとして、菊水西子ども会の熊本県子ども会球技大会3位入賞、和水町消防団第2分団の熊本県消防操法大会出場、馬場老人クラブの全国老人クラブ連合

会「2018活動賞」受賞、和水町出身で、バドミントン日本代表の廣田彩花選手が全日本総合バドミントン選手権大会女子ダブルスで2連覇を果たされるなど、地域の皆様のお力で、町を明るくしていただきました。

また、本年放送される大河ドラマ「いだてん」東京オリムピック噺の主人公の1人に、和水町出身で、日本マラソンの父と称される金栗四三氏を選定されたこともあり、11月に開催いたしました金栗四三翁マラソン大会など、各種行事において、多くの方々にご来場をいただきました。町では、「いだてん」の放送に合わせ、金栗氏をさらにPRをするべく、金栗四三ミュージアムと金栗四三生家記念館の整備を進めており、来る今月11日にオープンいたします。金栗氏の人物や魅力、功績、歴史を見て触れて楽しみながら、肌で感じることもできるものとなっておりますので、この好機を活かし、和水町の情報を全国へ発信してまいり所存です。町民の皆様におかれましても、日本人初のオリムピック選手となられた金栗氏の歴史を感じることでできる金栗四三ミュージアムと金栗四三生家記念館へぜひ、お越しください。

近年の国内情勢としましては、地方分権や地方創生が推進されているもの、人口減少や少子高齢化、家族形態やライフスタイルの多様化など、社会環境の変化によって、地域産業や集落の機能維持に及ぼす影響が懸念されており、和水町を取り巻く環境も年々厳しいものとなっております。

このようなことから、時代の流れを見極め、環境の変化に柔軟に対応していくため、今後の行政運営の総合的な指針として、「第2次和水町まちづくり総合計画」を策定いたしました。医療・福祉の充実、教育環境の整備、産業の振興、移住・定住の推進、道路網の整備など、各種事業に取り組み、「笑顔輝き 魅力あふれる和水町」をテーマに、地域の皆さまの安心・安全を第一に考え、「住みたいまち 和水」の創造に全力を注いでまいります。

引き続き町政に対するご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。年頭の挨拶といたします。



和水町議会議長 蒲池 恭一

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた平成最後の新春を、晴れやかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。町民の皆さま方には、日頃より、町議会に対しまして、深いご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。年頭に当たり、議会を代表いたします。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を顧みますと、2月に平昌オリンピック・パラリンピック2018が開催され、フィギュア男子の羽生結弦選手の大会二連覇に、ケガを乗り越えての金メダルに、誰もが感動をいただきました。又、「そだねー」が年間流行語大賞にもなり、「一躍大注目」となったカーリング女子、スピードスケートにおいてもメダルのラッシュと、冬季オリンピックとしては、金メダル4個を含む計13個と最多獲得、多くの日本代表選手の活躍で、感動の渦に包んでくれました。他にも、多くの日本人が、世界の舞台で日の丸を背負い、輝かしい成績を残し、感動をいただきました。スポーツにおいては、素晴らしい年でありました。

そして、町内出身者の選手も凄い！まず、亀門出身のバトミントンプレイヤー、廣田彩花さん、昨年も多くの国際大会で優勝し、女子ダブルス世界ランキング1位、次に中十町出身のバスケットプレイヤー、柿内輝心選手、熊本ヴォルターズに所属し、B2優勝、B1昇格目指し頑張っています。そして、和水町議会にも選んでいます。それは、荒木宏太議員です。昨年5月にスペインで行われた、2018トレイルランニング世界選手権において、世界12位と大健闘！今後も町内出身者の応援もよろしくお願いいたします。その反面、地球温暖化が要因の一つだ

と思われる、年々増す想定外の災害、2018年の「漢字「災」が表すように、全国各地で災害に見舞われました。本町においても想定外の災害に、どのように備えるかが、必要だと考えます。

本町に目を向けますと、郷土の誇りである金栗四三氏が、本年のNHK大河ドラマ「いだてん」の主人公に決定したことで、各方面から注目を浴び多くの来町者がありました。本年は更に多くの方々、我が町和水町に来ていただけたものと思えます。どうか町民皆で、おもてなしの心で、お迎えしていただければ幸いです。そして、この千載一遇のチャンスを町の活性化に活かすべく、執行部と共に頑張つてまいります。

和水町は、人口減少・少子高齢化などさまざまな喫緊の課題を抱えています。近隣の自治体以上に、自主財源の乏しい本町において、早急に行財政改革はもとより、なお一層、国・県等に働きかけながら、「第2次和水町まちづくり総合計画」の「笑顔輝き魅力あふれる和水町」を作り上げるべく、執行部と互いに知恵を出し合いながら、創意工夫を重ね、住民福祉の向上・住環境の整備・少子化対策・農業振興など、町政運営に全力で取り組んでまいります。

二元代表制の一翼を担う町議会が、町民の皆様方の代表者として、その役割と責任の重さをしっかりと、議員一人ひとりが自覚し、邁進してまいりますので、町民の皆様方のなお一層のご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

結びに、町民の皆様方にとって、新しい年が輝かしい一年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



和水町病院事業管理者 志垣 信行

新年あけましておめでとうございます。町民の皆さまも健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年も日本ではいろいろなことが起こりましたが、医学界では本庶佑（ホジヨウタスク）先生がノーベル医学賞を取られたことが明るいニュースとなりました。本庶先生はがん免疫について研究を重ね、オプジーボという新しいがん免疫治療薬の開発に繋がりました。それまで治療効果が期待できなかった。免疫療法はほとんど無かったのですが、著しい効果が期待できるがん免疫療法が確立されたのです。ただ現在は、皮膚がん、腎がん、肺がんなど数種類のがんしか適応がなく、かつその中の一部しか使用できません。また効果が得られるのは患者さんの2〜3割、他の薬を併用した場合で5割程度と、すべての患者さんに効くわけではなく、副作用も見られます。

新しい薬が開発された事と同時に話題になったのがその値段です。1本73万円の薬を1カ月数本使うため、1年間で3,500万円の薬剤費がかかることになりました。2年間使用すれば7,000万円が必要となります。このままでは医療保険が破綻しかねないので急速に薬価改定が行われ、現在は最初の1/4の値段になっています。

それでも1年間に1,000万円近くの薬代が必要になり、今後適応疾患が増えると、やはり抗がん剤が将来医療保険財政を圧迫するのは間違いないでしょう。

日本では3人に2人ががんになると言われています。進行がんになってしまつと完全に治ることが難しくなり、オプジーボを使うにしても、他の抗がん剤を使うにしても高額な医療費がかかります。しかし一番大変なのは本人です。抗がん剤を使用すると、多くの場合副作用で苦しむことになり、日常生活に支障をきたしてしまいます。

だからという訳ではありませんが、日ごろから健康に気を付け、症状が出ないうちに定期的な検診を受けることが大切だと思います。和水町は特定健診の受診率が熊本県下でトップクラスです。特定健診は生活習慣病の早期発見を目的にしていますが、最近では同時に見ていくようにもなっています。がん検診も受けられるようになってきます。がんは早期に見つければ完治できる時代になってきます。皆さんも1年に1回はがん検診を受けられることをお勧めします。町立病院ではいつでも検査ができますのでどうぞご利用ください。

結びに、町民の皆さまが今年も健康で元気に過ごされることを祈念して、新年のごあいさつとさせていただきます。